自然体験を通して、家族の絆を深めるとともに災害時に生き抜く力を養う

ネイパル足寄

目指せ！ミドルファミリーキャンパー

1　事業のねらい

キャンプ体験などの野外活動や宿泊体験を通して親子の絆を深めるとともに、周囲とのコミュニケーションを図りながら、災害時に対する自助・共助の意識を高める。

2　事業の概要

■期日　R6.8.24(土)～25(日)
■対象　家族
■人数　８家族２２名
■場所　ネイパル足寄
■運営協力　国立大雪青少年交流の家
　　北海道「体験の風をおこそう」運動推進事業

3　プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目	10:00―10:30受付					オリエンテーション　開会式	テントタープの設置	昼食	マイスプーン作り	火おこし＆薪割り		ダッチオーブンで料理を作ろう			焚火自由時間	就寝準備	就寝
2日目	起床	洗面等	簡単アイデアクッキング	テント片付け	ふりかえり	閉会式	10：30解散										

4　ねらいを達成するための活動の工夫

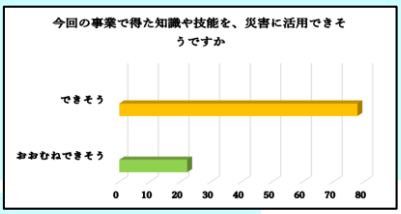
■災害に対する自助の意識を高めるためのプログラム
・参加者が自らナタを使用し火を起こすための薪を割り、ファイヤースターターの使い方を実施できるようなプログラムを取り入れた。
■共助の意識を高めるためのプログラム
・テントやタープの設営、ダッチオーブンを使用した調理において家族や参加者同士で協力するよう促すことにより、災害時に助け合うことやコミュニケーションを取ることで共助の意識を高めるプログラムを取り入れた。

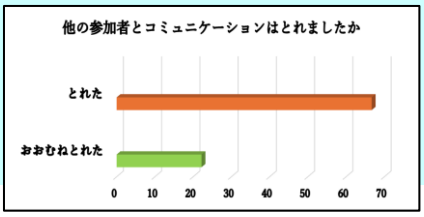
ファイヤースターターを使用した火起こし

協力してタープ設営をすることで共助の意識を高める

5　事業の評価

■事業アンケートから
・「今回の事業で得た知識や技能を、災害時に活用できそうですか」という項目において全ての参加者が「できそう」「おおむねできそう」と回答した。
・「ブルーシートだけで屋根を作ることで外でも安心して雨風をしのげることを知った」「麻ヒモを焚き付けとして使い、ファイヤースターターで火を起こすことで簡単に点けられることを知った」という声が聞かれた。
・コミュニケーションに関するアンケートからも「とれた」「おおむねとれた」という回答が多く見られた。





6　ねらいを踏まえた成果と課題

●自助・共助の意識を高めるプログラムを取り入れたことで参加者同士がコミュニケーションをとり、助け合いながらプログラムを進めることができた。
○参加者の力量がプログラムの進捗に大きく影響するため事前の職員研修を充実させ、時間の削減できるところを共有し余裕をもったタイムスケジュールを意識する。

企画のポイント

キャンプ体験を通して、楽しみながら親子の絆や災害時に対する自助・共助を深める。